

子育て・教育

ホストファミリーになってみたら

ホストファミリーになりませんか？ 国際交流団体などが海外の高校生留学生のホームステイ先を募集している。気持ちさえあれば、海外の高校生の親として、ひと味違う子育てが楽しめるかもしれない。

(村島有紀、写真も)

家族の一員

「江戸時代にタイムスリップするドラマ『JIN—仁—』を見て、日本の文化が好きになりました。日本語を勉強するのが大好きです」

スウェーデンの留学生、ケビン・エラゾさん(18)は、高校生の留学をすすめるWYS教育交流日本協会(東京都中央区、☎03・5651・0339)の交換留学生として8月29日、来日。世田谷区のマンションでホームステイしながら、約10カ月の予定で明星学園高校(三鷹市)に通う。

高校生留学の特徴は、大学生のように大人と扱われず、受け入れ先が保護者となり、学校との折衝や生活全般を監督する。エラゾさんの家族は、ホストマザーの中西まさみさん(52)、ホストファーザー(53)、大学生の長男(19)、高校生の次男(6)の4人だ。

ひと味違う海外の息子・娘との生活

エラゾさんは家族の一員としてお手伝いもする。ゴミの分別、風呂で使うタオルをきれいに洗い、清潔を保つことだ。「ゴミの分別ができないと将来、日本に住んで困るから」と中西さんは話す。

中西さん一家が留学生の受け入れを始めたのは3年前。長男の「イタリアに留学をしたい」との希望から、学校を通じた交換留学の条件としてイタリアの高校生を5週間、受け入れたのがきっかけだった。その後、ベルギー、フランス、

ニュージーランドなどの留学生を数週間から数カ月の期間で受け入れている。

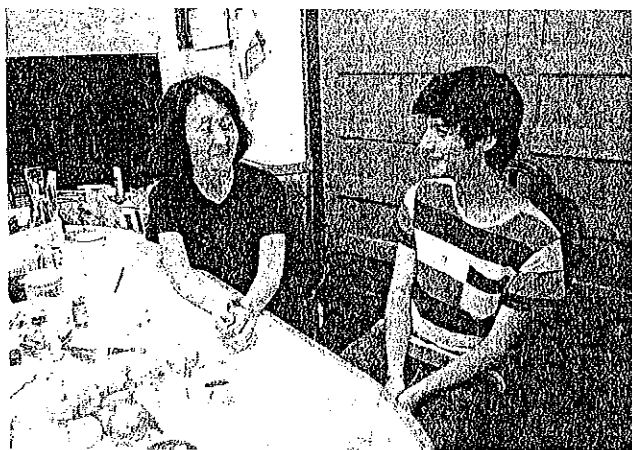
「始める前は、家の中は片付いていないし、家事も得意じゃないし、自分には無理と思っていた。でも、最初の子を迎えたとき、自分の息子が海の向こうから来たように思えた。日本にいながら密な関係が築けるのがホストファミリーの魅力」と中西さん。

気軽に応募を

同協会の交換留学は、米国、豪州、ドイツ、フラン

ス、韓国など12カ国へ日本の高校生を派遣し、世界20カ国から高校生を受け入れる。ホストファミリー(無償)は小さな子供がいる家庭から高齢者だけの家庭までさまざまだ。

同協会のシニア・ディレクター、有田信夫さんによると、海外の高校生の多くは幼い頃から日本のアニメや漫画、ドラマなどを見たことがあり、日本文化への理解も深い。「一人一人の留学生にはカウンセラーがついて対応する。部屋も同性的の『きょうだい』との相部屋でいい。もう一人、子育てするつもりで受け入れを考えてほしい」(有田さん)



親子のよつに一つ屋根の下で暮らす中西まさみさん(左)とエラゾさん。エラゾさんは将来、音楽関係に進みたいという。

|| 東京都世田谷区